

飯尾敷地小学校  
「学力向上実行プラン」

- つながりで創る「わかる・楽しい」授業で、意欲と自信を高め、主体的に学ぶ態度を育てる。
- 自他を大切にしながら規律ある学習活動を行い、家庭と連携して学習習慣の定着を図る。

学力向上推進員	委員
---------	----

校長  
住友 美香

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算のミニテストを実施することにより、漢字の読み書きや四則計算などの基礎的・基本的な力が身に付いてきている。 ●学力の個人差が大きく、学習内容の定着に時間がかかる児童がいる。語彙力や書く力に課題がある。	・各学年で学習する漢字・計算を確実に身に付けることができる。 ・語彙を増やし、学んだことや自分の考えを文章に書くことができる。	・タブレットや復習プリントを活用して、既習内容を繰り返し復習する機会を設ける。 ・各教科の単元ごとに授業中の振り返りをしっかり行う。 ・書く力を高めるために、5W1Hを意識させた日記指導や自分の考えを書く活動を行う。	・小学生新聞やあわスタを活用し語彙力や読み取る力の向上を図る。 ・子ども俳句やあわスタの活用・テーマを設定した日記指導により、書く力を養う。 ・読書の時間や読み聞かせの時間を増やす。	・上学年は新聞やあわスタを活用し低学年は子ども俳句や日記指導で読み取る力や書く力を向上させた。 ・外部人材の活用や図書委員会による読み聞かせ等読み聞かせの方法を工夫した。個々の読書時間は増やせなかった。	・新聞の活用や日記指導を継続し、読解力や書く力の向上を図る。 ・低学年では朝の読書の時間に、小学生新聞を読む。担任以外の教員が読み聞かせを行ったり、給食後に読書の時間を設けたりするなど、学校全体で読書活動向上に取り組む。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動やみんなで表現する活動を楽しんでいる児童が多い。友達を支えながら調べ学習等の学習に取り組む児童が増えてきた。 ●聞くことが苦手で、理解が不十分であるため、じっくりと思考・判断したりすることに課題がある。身につけた知識や技能を活用して自分の考えを伝えることが苦手である。	・今まで学習したことや身につけた技能を活用して、自分の考えをまとめることができる。 ・話をよく聞き、自分の考えを表現することができる。 ・自他を大切に、場に応じたコミュニケーションができる。	・ICT やホワイトボードを活用し、児童が自分の考えを表現できるよう、積極的に授業改善を行う。 ・特別活動や学校行事等で、児童が相互に感想を伝え合う機会を設ける。 ・ICT を効果的に活用した授業づくりのための研修を行う。	・ペア学習やグループ学習等を効果的に取り入れ、自分の思いや考えを表現したり深めたりできるようにする。 ・縦割り班活動を計画的に実施し、場に応じたコミュニケーションができるようにする。 ・ICT やタブレットを活用した授業を教員相互に参観する研修を行う。	・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、児童は自分の考えを表現できるようになった。 ・縦割り班活動で上学年がロールモデルとなり、よりよいコミュニケーションを広げることができた。 ・教員相互に授業を参観する研修は実施できたが、ITC やタブレット研修以外の内容が多かった。	・児童主体の特別活動を増やし、表現の場を増やしたり「聴く」「話す」のスキル向上をめざしたコミュニケーションの機会を充実したりする。 ・ICT 支援員等を活用し、低学年でもタブレットを活用できる方法を学ぶ授業力向上研修を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に真面目に取り組む児童自身もできる喜びを実感している。宿題を毎日提出できる児童が増えてきた。 ●自ら進んで課題を見つけることや、難しい課題に粘り強く取り組むことに課題がある。家庭においてはゲームやネットなどメディアとの付き合い方に問題のある児童もいる。	・学習規律を守り、自ら進んで学習に取り組むことができる。 ・家庭学習を習慣化し、自分の学力に合った課題や自主学習に取り組むことができる。	・自主学習の手引きを配布して家庭へ啓発するとともに、自主学習ノートを互いに見合う機会を設け、意欲を持続させる。 ・児童が節度をもってメディアと付き合い合うよう、指導の改善を図る。	・校内自主学習コンテストを定期的に行い、学習意欲の向上を図る。 ・児童の学習意欲が維持、向上するような評価を行い家庭へも伝える。 ・適切やメディアとの付き合い方について定期的に家庭へ働きかける。	・学年を超えて自主学習ノートを見合うことで、自主学習の内容が深まり、学習意欲向上につながった。 ・アウトメディアチャレンジなど適切なメディアとの付き合い方を定期的に働きかけ、高学年では自分の生活を見直す機会となった。	・自主学習の意義や方法を家庭に伝え、連携できる取り組みを創り出す。 ・メディアとの適切な付き合い方を親子で学べるような活動を行ったり、メディアコントロールデーを設けたりする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

